

令和 6 年度第 1 回浜松市環境審議会 会議録

- 1 開催日時 令和 6 年 8 月 27 日（火） 午前 9 時 30 分から午後 0 時
- 2 開催場所 浜松市鴨江分庁舎 2 階会議室（※Web 会議方式を併用して開催）

- 3 出席者
審議会委員

氏名	所属等	備考
秋山 雅幸	公益社団法人 静岡県産業廃棄物協会	
石川 春乃	静岡理工科大学 理工学部	副会長
伊藤 徳江	浜松市消費者団体連絡会	
中村 俊哉	常葉大学 健康プロデュース学部	
橋本 博行	浜松市自治会連合会	
藤井 康幸	静岡文化芸術大学 文化政策学部	
藤本 忠藏	浜松医科大学 医学部 名誉教授	会長
藤森 文臣	遠州自然研究会	
山本 真実	浜松医科大学 医学部	
渡邊 記余子	浜松商工会議所 監事	

事務局

所属	出席者氏名
環境部	山田環境部長、久米参与（環境部次長）、齋藤環境部次長（環境政策課長）、鈴木茂参事（一般廃棄物対策課長）、鈴木（浩）参事（一般廃棄物対策課資源循環推進担当課長）
環境政策課	上野専門監（課長補佐）、稲葉副主幹、鈴木良副技監、内山主任
一般廃棄物対策課	後藤（崇）副主幹
廃棄物処理施設課	平口課長、後藤（匠）副技監

- 4 傍聴者 0 名（報道 0 名）

- 5 議事内容

報告事項

- ・委員の改選および部会の廃止について（生物多様性戦略策定部会）
- ・浜松市一般廃棄物処理基本計画の令和 5 年度進捗報告について
- ・生物多様性はままつ戦略 2018 の進捗について
- ・第 2 次浜松市環境基本計画の進捗について

審議事項

- ・（非公開審議）第 3 次浜松市環境基本計画の策定について

- 6 会議録作成者 環境政策課企画調整グループ 内山

- 7 記録の方法 発言者の要点記録

- 8 会議記録 有（一部非公開）

1. 開会

2. 挨拶

山田環境部長

《山田環境部長挨拶》

3. 議事

事務局（齋藤次長）

本日は審議会委員 10 名中 会場にて 5 名 WEB にて 5 名の合計 10 名の出席をいただいております。過半数に達しているため、浜松市環境審議会規程第 4 条第 2 項により、審議会が成立する。

ここからの議事進行については、浜松市環境審議会規程第 4 条第 1 項により「会長が会議の議長となる」こととなっているため、藤本会長にお願いする。

藤本会長

議事に入る前に、会議及び会議録の公開について、確認する。本日の審議会では、審議内容に行政運営上の非公開情報が含まれるため、浜松市附属機関の会議の公開に関する要綱第 3 条に基づき、一部非公開とすることで良いか。

全委員

（異議なし）

藤本会長

異議なしのため、本日の会議は一部非公開とする。

《傍聴者入室確認》（傍聴者なし）

本日の会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関の会議録の作成及び公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、非公開部分を除き公開する。

① 報告事項 委員の改選および部会の廃止について（生物多様性戦略策定部会）

藤本会長

始めに、報告事項の 1 つ目、委員の改選、部会の廃止について事務局から説明をお願いします。

環境政策課

《資料 1-1》 資料 1-2 に基づき説明》

藤本会長

只今の説明について、ご意見・ご質問はあるか。

全委員

（意見・質問なし）

② 報告事項 浜松市一般廃棄物処理基本計画の令和 5 年度進捗報告について

藤本会長

続いて、報告事項の 2 つ目、浜松市一般廃棄物処理基本計画の令和 5 年度進捗報告について、一般廃棄物対策課・廃棄物処理施設課から説明をお願いします。

一般廃棄物対策課

《資料 2-1》に基づいて 令和 5 年度ごみ・資源物排出状況について説明》

藤本会長

只今の説明について、ご意見・ご質問はあるか。

石川委員

一般廃棄物処理基本計画の最終年度である、令和 10 年度のごみ総排出量の目標値設定をしたのは何年度か？

- 一般廃棄物対策課 計画は令和4年4月に改定されており、その時に令和10年度までの目標値を設定した。
- 石川委員 計画目標値を比較的上目に達成できており、これ自体は喜ばしいことだが、今後の目標値の再設定・見直しについて考えはあるか。
- 一般廃棄物対策課 （計画では）ごみ総排出量、資源化率、最終処分量を目標とした中で、現在、家庭ごみの有料化の実施時期と関連して、一人1日あたりの家庭系ごみ排出量の令和10年度目標を404.0g/人・日と掲げ、取り組んでいる。
委員御指摘のとおり、計画目標値が比較的上目で達成できている場合、通常であれば目標値の見直しを検討するところである。一方で、計画目標値をより厳しい方向に見直した場合、一人1日あたりの家庭系ごみ排出量も連動して厳しくなってしまうため、現時点では目標値の見直しは難しいと考えている。
- 石川委員 令和4年4月に設定した目標値をまずは達成しつつ、時勢に応じて対応するというところか。
- 一般廃棄物対策課 情勢に大きな変化があれば見直しもありうるが、家庭ごみの有料化の実施判断に関するこれまでの経緯との整合もあるため、当面、目標値の見直しを行う状況にないと考えている。
- 藤森委員 目標は、実績を勘案して作られるものと思う。令和4年度時点で令和5年度の目標値を達成してしまっている。目標値とは、通常、頑張った実績を反映するものである。令和10年度の目標値は来年あたり達成してしまうと思うがどうするのか、このままでは目標の意味がない。この件に限らないが、その時点で達成できた目標は常に再検討する必要があるのではないか。
- 久米参与 有料化の条例に関連する形で市民と共有しているこの目標を上げてしまうと、市民の目線では（有料化延期への）ハードルが上がってしまうことになる。計画の中間時点で比較的上目に目標値を達成している結果となっており、もちろん社会情勢が変化して社会の要請があれば修正していく必要があるが、今のところはこの数字で行きたい。
- 藤森委員 この場で我々が理解したとしても、事務局の説明を直接聞く機会のない市民には理解できないはずである。目標を達成したのに次の目標に反映されていない点を、市民に対してどう説明するのか。真剣に考えてほしい。
- 一般廃棄物対策課 今年の2月議会で、条例施行の時期は決まっていない、時期を決めるにあたって目標値がある程度達成されていれば先延ばしにすると、市民（の皆さん、以下略）に対して説明している。
今目標値を上方修正すれば、有料化を避けるために努力している市民は、「頑張ったのに目標値を厳しくするのか」と感じるのではないか。
- 石川委員 市民が有料化にならないように頑張ってごみを減らしていることと、浜松市の総排出量が減っていつているというのは同じ結果を示している。
目標値の変更が難しいのであれば、例えば、去年のように今年も頑張るとこれくらい減量できる、といった年次の目標・報告であるとか、皆さんの努力でこれだけ減って先延ばしになったとか、説明の仕方を工夫して減量結果の発信がより見える化できるという。

一般廃棄物対策課	現在、『Go！みんなで404チャレンジ』と称して、ごみ減量のキャンペーンを実施している。9月8日にも、ごみ清掃芸人を呼んでイベントを開催する予定である。
藤森委員	例えば、ごみの総排出量は来年クリアの可能性がある。こんな短い時間で達成できた、それではもっと減量しよう、とするのが普通の考え方。元の計画の数値はなんらかの形で残しておけばいいのでは。
一般廃棄物対策課	石川委員のおっしゃるのは、計画値を変えるのが難しいのであれば、それとは別に何か見える形の目標のようなものを示してはどうかというご意見と思う。
藤森委員	(目標を変更しないのであれば、) この計画目標値は完全に空論では。
一般廃棄物対策課	家庭系ごみの排出量は、たまたま直近で減少しているように読み取れるが、それまではずっと横ばいだった。この先も同じ傾向で減少していくかは見通せないため、猶予を見ていただいたほうが良いと考える。
久米参与	図表3(ごみ総排出量の内訳)の示すとおり、家庭系ごみがなかなか減少しない中で、何が効果的かということで有料化を検討することになった。図表4(一人1日当たりの家庭系ごみ排出量)の令和10年度目標値は容易い数値設定ではない。仮に今年度は目標値を達成できたとしても、来年度は令和10年度に向けてさらに厳しい目標値となる。総排出量の目標値を家庭系ごみに落とし込んだ場合、決して容易い数字ではないことはご理解いただきたい。
渡邊委員 (音声トラブルにつきチャットを事務局代読)	何年か前からこの審議会に出席させていただいているが、この会議で市民(の皆さん)という言葉が出てくることが素晴らしいと思う。 雑がみ分別やこどもモットイナイ大作戦の出前講座等、学校やPTAにも呼び掛けてという会議で挙げた声を受け止めて実際に行って、商工会議所等とのコラボもしてくれている。このような活動はすぐには数字に表れてこないかもしれないが、確かな活動になっていっているのではないかと思う。市民との触れ合いがあるからこそ、目標達成の難しさもあるという回答にもうなずけるところがある。
藤本会長	続いて、資料2-2について説明をお願いします。
廃棄物処理施設課	《資料2-2に基づいて 令和5年度生活排水処理状況について説明》
藤森委員	合併処理浄化槽への設置替えがなかなか進まないことは、どんな理由が考えられるか、それに対してどういう方策を考えているか。
廃棄物処理施設課	浜松市では合併浄化槽の補助金があるが、既存の単独浄化槽は設置替えを進めているところである。新築時に戸別訪問などしているが、設置替えが進んでいない状況である。昨年度の補助実績は306基である。
藤森委員	それは経済的負担が主な理由か。であれば、補助率を上げるなどしてはどうか。
廃棄物処理施設課	導入のほか、清掃・点検メンテナンス等の維持費がかかる。 維持費については、浄化槽の清掃が上下水道部管轄のため、確認して改めて回答させていただきます。
	(事務局注：一般的な5人槽の場合、年間約65,800円で、内訳は、清掃が年1回3万～4万円、機器が動いているかどうかの保守点検が年4回3,000円～5,000円、

法定検査が年 1 回で 5,800 円。)

③ 報告事項 生物多様性はままつ戦略 2018 の進捗について

藤本会長 報告事項の 3 つ目、生物多様性はままつ戦略 2018 の進捗について環境政策課から説明をお願いします。

環境政策課 ≪資料 3 に基づき説明≫

藤本会長 只今の説明について、ご意見・ご質問はあるか。

藤森委員 (戦略 2018 の) 基本方針 1 の②の指標にある、長寿命化とはなにか。

環境政策課 農地を維持するための交付金、用水路整備などに使う交付金である。多面的機能支援交付金は、農地には農作物を作る以外の機能もあるため、それを向上させるために交付している。その項目の 1 つに「長寿命化」がある。

(事務局補足：長寿命化とは、老朽化が進む農地周りの農業用水路、農道などの設備の長寿命化のための補修・更新等の活動のこと)

藤本会長 (戦略 2024 の) 成果指標について、現状値から見て目標値が高い気がするがどうか。最初の基本方針 1 はそれほどでもないが、他二つは高い目標と感じる。設定の考え方はどういったものか。

環境政策課 保全地域は、用途があって面積等を定めている。(動植物の) 生息地は減少傾向で、維持していただくだけでも大変だが増やしたい。数値的には現状が少なく見えるが、それでも重要なのでこの目標設定になっている。

藤森委員 「環境保全活動に参加した市民の割合」は増やせそうか。

環境政策課 これが重要なので、何とか増やしたいと考えている。

④ 報告事項 第 2 次浜松市環境基本計画の進捗について

藤本会長 報告事項の 4 つ目、第 2 次浜松市環境基本計画の進捗について環境政策課から説明をお願いします。

環境政策課 ≪資料 4 に基づき説明≫

藤本会長 只今の説明について、ご意見・ご質問はあるか。

藤森委員 環境指標について、佐鳴湖の COD (Chemical Oxygen Demand : 化学的酸素要求量) が示されているが、これは 40 年前から同じ。毎月佐鳴湖畔に今月 (先月) の値が表示されているので目にするが、昨年は 1 回だけ 8 mg/L を超えたがだいたい達成している。(事務局注：令和 5 年度は 12 回測定を行い、8 mg/L を超過した回数は 4 回。8 月 (10 mg/L)、

1月(8.1 mg/L)、2月(8.3 mg/L)、3月(8.1 mg/L))佐鳴湖で活動している人達は、泳げるように、水遊びできるようになれば、と一生懸命である。そういうことを考慮すると、市としての目標はもう少し下げてはどうか。

また、今はCODの値で考える時代ではなくなってきている。今はPFASの問題もあるが、市として佐鳴湖については、全窒素でも何でも、何か他の基準は作れないかを考えてもらいたい。

私が佐鳴湖に関わっていた当時は、CODが15mg/Lだった。色々要因があるが、それがここまで下がったのは事実。海水が大分入って、生物にとっては悪い環境になっている。汚れの問題ではなく塩水化の問題が出てきている。

環境政策課

指標の設定見直しや別の指標の検討については、環境保全課にて所管しているのでこちらに伝える。

橋本委員

佐鳴湖に関して、富塚、佐鳴台地区で花火を毎年やっているのですが、補助金をお願いしたい。浜松市が協賛しているので、お金を出しているようにとられる。環境保全の謳い文句もある。

(事務局注：市が佐鳴湖花火大会に行っているのは協賛ではなく「後援」)

環境政策課

ご意見について、所管部署へ伝える。

藤森委員

クリハリス対策について、クリハリスが現状また増殖している。放置したら大変なことになる。(対策の一環として)一般市民に(捕獲を)お願いしているが、なかなか捕れない。351人登録しているが、ほとんど稼働していない。

私は(防除計画の策定)当初反対したが、ここまでくると1頭100円でも捕獲報奨金を出していかざるを得ないと思っている。今なら全頭捕獲しても対応できる金額で済むが、1、2年放置したら元の木阿弥で市内全域に広がる。そのくらいの予算はつけても良いと思う。今のところ、市内で被害が出ているとは聞いていないので今のうちだと思う。

果樹園に被害が出たら大変だし、(引佐、天竜以北の)森林に入り込んだら在来の二ホンリスとの関わりがどうなるか心配である。

あとは、捕獲を役所の職員に自宅近辺でやらせれば良い。まずは自ら取り組んでほしい。そのうえで市民に協力を呼び掛けてほしい。

石川委員

基本方針3の「気候変動に適応しエネルギーを効率的に利用する都市」の指標について、近年、国の目標設定が大きく動いている。

それに対して、元々丁寧にエネルギー政策をやってきた浜松市としては、温室効果ガスの目標を計画途中で上方修正した結果、最終評価が「未達」になってしまっている。その理由が市民に届くことがとても大事と考える。

例えば、実績値に対して目標値を旧目標、新目標それぞれを表記してはどうか。うまく伝えることも大事で、きちんとやっているものはやっているけれど、2050年、あるいは2030年に向けてこういう国の動きがある中で、目標値を修正し、評価としては未達であるなどの説明がないと、受ける側が分かりにくい。

環境政策課

ご意見を踏まえて、指標の書きぶりを検討する。

石川委員

緑地保全面積についても同じように、目標値は面積・ヘクタールという数量になるが、その質も重要である。理由説明を付して「だから市民の森を立ち上げて、取り組んでいる」ということをアピールしてはどうか。

また、緑地保全面積は実績値が横ばいの状況で、大きく増やす目標になっているが、

どう達成するか。風致地区や生産緑地地区などどうしても減ってしまうなか、市民の森でこのように対応しようと思っているという説明をしてはどうか。

「市民の合意形成を図ることで…」の説明文だけでは説明が不十分で、もったいないと感じた。

《公開部分終わり》

④ 審議事項 第3次浜松市環境基本計画の策定について

《非公開部分終わり》